

職業訓練指導員養成のための e ラーニング環境の設計 — 職業能力開発総合大学の導入教育事例 —

Design of e-learning environment for training vocational training instructor - Polytechnic university practice case -

藤田 紀勝^{*1}, 星野 実^{*2}, 堀内 淑子^{*3}
Norikatsu FUJITA^{*1}, Minoru HOSHINO^{*2}, Yoshiko HORIUCHI^{*3}
^{*1}職業能力開発総合大学校
^{*1}Polytechnic University
^{*3}職業能力開発総合大学校 (元) 客員教授
Email: fujita@uitec.ac.jp

あらまし：本稿は、2015年4月に開講された職業訓練指導員養成のための e ラーニング環境設計の概要について述べる。本コースは、職業能力開発指導力養成コース、キャリア・コンサルティング力養成コース、訓練コーディネート力養成コースの3コースを柱としたものである。本コースの特徴は、単なる知識付与ではなく、実際の場面で知識を活用する能力までを育成する点にある。3年目の運用を迎え、職業訓練における Web 活用の推進と注意点について報告する。

キーワード：ID, 職業訓練, e ラーニング

1. はじめに

筆者らが所属する職業能力開発総合大学校は、(独)高年齢・障害・求職者雇用支援機構が運営する厚生労働省の所管であり、職業訓練指導員の養成・研修、職業能力開発に関する調査・研究を行っている。指導員養成訓練の一つとして短期養成課程があり、Web で受講できる短期養成課程 (Web コース) (以下、Web 訓練という) が2015年4月に開講された。昨今の職業訓練指導員不足は深刻であり、特定の時期に特定の場所に行かなくても指導員免許の取得ができる環境は職業訓練指導員不足解消にも寄与すると期待されている。Web コースは、実務経験や各種資格を所持した方等を対象に、短期間 (144H) で職業訓練指導員に必要な能力を習得でき、短期養成課程修了後、職業訓練指導員試験の受験資格を有する者は、能力審査 (普通課程資格審査) を受験し、合格者は各都道府県知事への申請により、職業訓練指導員免許が交付される。

現在は、職業能力開発指導力養成コース、キャリア・コンサルティング力養成コース、訓練コーディネート力養成コースの3コースを開講している。国家資格であるため、Web 訓練であっても対面と同等の品質を保証していかなければならない。

本稿では、職業訓練における Web 活用の推進と注意点について報告する。

2. Web 訓練教材の形態

表1に科目一覧を示す。各コースは、4つの科目から構成されている。職業訓練指導員の仕事は、対人間であり、ヒューマンスキルが要求される。また、単に知識を知っているだけでなく、実際の場面で知識を活用する能力も要求される。そのため知識習得を主目的とするこれまでの e ラーニングとは違った考えで e ラーニング環境を設計しなければならない。

表1 短期養成課程の科目一覧

職業能力開発指導力養成コース		訓練コーディネート力養成コース	
授業計画法	教材開発法	施設外訓練支援論	人材育成支援論
受講者支援法	技能指導法	コース開発・運営法	コーディネート演習
キャリア・コンサルティング力養成コース			
キャリア・コンサルティング概論		キャリア・コンサルティング技法	
キャリア・コンサルティング理論		キャリア・コンサルティング応用	

表2 Web 訓練教材の形態

(1)資料提供
(2)Web 会議 (Live 授業)
(3)レポート提出
(4)Scorm 教材
(5)Web テスト
(6)ビデオファイル提出
(7)その他 (掲示板, 質問等の付加的な利用)

本 Web 訓練は、熊本大学の事例⁽¹⁾ ⁽²⁾などを参考に e ラーニング環境を設計した。

表2に Web 訓練教材の形態を示す。現在の情報通信技術でストレスなく学習できることが重要である。これまでの実施において、(1)(3)(7)の組み合わせで問題は生じていない。資料提供して、Web 検索しながらレポートを提出する学習形態が歴史的にこなれた形であることがわかる。(5)も知識の定着に有効であり、問題は生じていない。一方で、(4)Scorm 教材において、ビデオを挿入した場合、受講者のコンピュータ性能、回線の品質でクレームが出ることがあった。(2)Web 会議では、更に、コンピュータ性能と回線の品質が厳しくなる。(6)ビデオファイル提出は、模擬授業などをアップロードしてもらう。模擬授業の撮影やアップロードに戸惑う受講生にサポートセンターが対応する場面もあった。特に、職業能力開発指導力養成コースは、これまでの指導方法だけで

なく、新しい方法を体験してもらうことも重要と思われる。そのため、「学習がスムーズに進むこと」だけでなく「どのような使用感か、現時点でのメリット・デメリット」、「今後の動向」といった観点を明確にして Web 訓練教材の形態を増やしていく必要がある。

3. Web 訓練教材の設計

Web 訓練教材の品質を保証するため、すべての科目において、UNIKIDS を用いた ID による目標分析を実施している。本章では、Web 訓練教材の設計のポイントについて、教材内容から知識付与型、実習型、思考型の3つに分類して述べる。

知識付与型とは、用語が正しく使えるようになり、基礎的な理論や手順を単純なレベルで説明できるようにするレベルを目標とする訓練である。このような訓練の e ラーニング化により、学習者の前提条件を活かした効率の良い学習が可能となる。学習者はすでに知っていることについて余分な時間を消費しなくてよい。知識付与型の授業は必要な学習時間について個人差が大きいと想定されるため、有効と考えられる。今回の教材における工夫としては次のような工夫を行なった。

- ・ Scorm 教材中にクイズを埋め込む
- ・ 教材の冒頭で最後に課される課題を説明
- ・ 映像の埋め込み
- ・ イラストや図示の活用
- ・ 教材学習終了後のテスト問題

次に、実習型を述べる。実習型は、知識付与型で学んだ知識が活用できることを目標とする訓練である。Web が活用できる範囲を事前に明確化することが大切である。例えば、実習に入る前の手順や準備、注意事項などを習得するために利用するなどが考えられる。今回のケースでは、模擬授業をビデオ撮りして提出する課題が課せられたが、課題設定から録画、提出、評価に至る中で無理が見られ、クレームの原因となった。事前の詳細な説明が必要である。その他として、

- ・ 実習に関連した注意事項や手順を示し、なぜそのように行うべきか背景や一般論も合わせて説明する。
- ・ 危険なこと、してはいけないこと、間違ったやり方などを入念に説明する。などが考えられる。

などが考えられる。

最後に思考型を述べる。思考型とは、考え方を伝えて、それが自分でも使えるようになることを目標とする授業である。例えば、訓練コーディネータ力養成コースでは、Cudbas の考え方に従って能力分析を行う内容を Scorm 教材化した。手順及び考え方を伝え、課題で適用してもらう。これについて、独習では習得が困難と予想された。そのため指導者の考え方を要素に分解して、学習者に学習項目の漏れなく伝える教材を設計した。具体的には、執筆者の他に、内容には詳しくない担当者がインストラクショナルデザイナーとして学習者視点から意見を述べ、原稿の行間を埋め、図示に努めた。その結果、普段の対面授業で説明しているより充実した内容となり、対面授業で行われる場合にもこの教材を使用し、実習を行っている。

対面授業においては、複数の受講者に対応するため、理解の遅速、そのときの状況において必要な説明を飛ばしてしまうことがあったが、Scorm 化することで漏れなく必要事項を伝えることができた。学習者は必要なだけの時間をかけてじっくり視聴し、自分ができそうだと思うようになるまで考えてから課題に取り組んで、成果を上げることができたと推測される。この型の授業にも適用して効果が上げられることがわかった。引き続き教材を発展させる必要がある。例えば、

- ・ 何が困難点か、わかりにくい点かについては情報収集していく
 - ・ 例題を追加する
 - ・ QA を用意する
- などが考えられる。

4. おわりに

本稿では、職業訓練における Web 活用の推進と注意点について述べた。Web 訓練教材の品質向上には、①想定した対象者に提供されているか、②想定した成果は挙げられているか、③学習者、実施側に不都合はないか、④教材としての正しさ、⑤わかりやすさ、⑥使いやすさの面から PDCA サイクルを回すことが重要である。職業能力開発総合大学校では、授業担当者以外のメンバーが入り、コースの訓練の質を評価している。訓練評価は Web 訓練教材の品質向上のために訓練担当者にフィードバックしている。職業訓練指導員を育成する立場で、新しい技術を追いかけつつ、広く訓練を提供していく必要がある。

参考文献

- (1) Junko Nemoto, Shin-Ichiro Kubota, Masahiro Migita, Takayuki Nagai, Shirou Kitamura, Toshihiro Kita, and Katsuaki Suzuki: "Design-Based Research of Authentic Learning: Lessons Learned From Improving an Online E-learning Specialist Graduate Program", Information and Systems in Education, Vol.9, pp.57-68 (2010)
- (2) 鈴木克明: "e ラーニング活用による教授法の再構築に向けて", 工学教育, pp.15-19(2013)